

おわら絵に自らのすべてを刻む

本名、林正雄。

明治36年、八尾（やつお）生まれ。

高等小学校修了後、東京へ出て洋品店に奉公。

秋路の美意識は東京時代に培われたようである。

秋路の絵は、昭和2年に八尾に帰ってから。

趣味ではじめたが、書いてくれと頼まれることが多く、肉筆では追いつかなくなり、版画を掘り始め絵葉書とした。

おわら版画に打ち込む一方で、秋路は女と酒に溺れる。

原画のモデルは、思いを寄せた芸者とも。

静かな酒だったが、浴びるようにのんだ。

晩年は片時も酒から離れられない秋路。

のめば梯子でどこまで登る

雨を酒にしようと オワラ いうてのぼる

生前の秋路を知る人たちは、

「大酒のみだけど、素直で、欲のない、誰からも好かれる人だった」と言う。

おわら絵に自らのすべてを刻んで、秋路は昭和49年、70歳で亡くなった。

林
秋
路

お
わ
ら
の
お
は
な
し



本画像の転載、複製、改変等は禁止いたします。



本画像の転載、複製、改変等は禁止いたします。